令和３年度早川南小学校だより

はるき

令和３年11月24日
No.２８
校長　河西弘明

最後の頁を閉じた　違う私がいた

早川の山々は、秋から冬支度へと装いを変え、校庭の端っこの方では、落ち葉が茶色い絨毯になっています。今年の第75回全国読書週間の標語は、上の言葉です。なかなかのいい表現ですね！

今年も本校では、11月5日から30日までを『南小読書週間』として、様々な催しを開催しています。本校の特色ある教育活動の一つである読書の取り組みは、昨年度は休校などがあり全部はできなかったのですが、今年は4月から全てできており、改めて本校のこの活動の充実ぶりを感じています。どの学校でも、同じような催しや活動を行ってはいるのですが、年間を通しての回数や種類は、なかなか他では見られないくらいの内容です。

南小読書週間に先立って、先月の26日には図書集会が開催されました。内容は、「日本の昔話を読んでみよう」で、図書委員が一冊ずつクイズを交えながら紹介してくれました。昔話と言って私が思い浮かべるのは、やはり幼少の頃、祖母が読んでくれた桃太郎や浦島太郎、それから一寸法師はレコード付きの絵本があって、そのレコードも何十回と聞きながら読んだことを覚えています。昔話という言葉の響きが、私にとっては心地よく感じられる言葉です。

その他には、5年生と養護教諭による「読書のすすめ」もありました。5年生は、「作家に着目して読んでみよう」というテーマで、エリック・カールさんと宮西達也さんを取り上げてくれました。どちらの作家もとても有名で人気のある方ですが、1年生にもわかりやすく、絵本のいいところや面白いところを中心に何冊も紹介してくれました。また、保健室の先生だけあって、体や目に関する本をたくさん紹介してくださいました。目の錯覚はどうして起こるのかとか、人間の体はとてもよくできていて、それぞれの機能の大切さや不思議さについて書かれている本を、問題を出しながら楽しく紹介してくださいました。「はたらく細胞」という漫画が、昨年あたり話題になりましたが、その本も本校にあるので、手にとって楽しみながら勉強ができる本ですね。

また、夏休みに、各ご家庭で取り組んでくださった「ふれあい読書」ですが、今年も司書の先生が素敵な本に作ってくださり、全ご家庭を回覧したところです。昨年も感じましたが、家族で一緒に一冊の本を読み、読んだ本の感想を交わし合う機会となって、それが子どもたちの読書活動の習慣化につながっていくと思います。さらに本校では、今年、一人一台端末の導入を機に、「電子図書」を読めるようにしました。朝の読書の時間には、タブレットの画面越しに本を読む児童の姿が見られ、新しい時代の読書として子どもたちに読書の機会を提供することができています。たくさんの活動を紹介していたら、私も、また本を読みたくなりました。